

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-ア	生物多様性の保全	施策	① 自然環境の保全に向けた調査研究及び推進体制の構築
			施策の小項目名	○在来種の保護・保全に向けた研究
主な取組	うちなーロードセーフティー事業			
対応する主な課題	①本県は亜熱帯性気候のもと、サンゴ礁が発達した青い海に囲まれ、貴重な野生生物が数多く生息しているが、本土復帰後からの社会資本整備等により多くの自然環境が失われ、沖縄の生物多様性が失われていくことが危惧されている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
生物にふさわしい環境作り、道路環境の改善等を行うことで、ロードキル防止及び道路利用者に対し安心して走行してもらう事を目的に、対策工事及びモニタリング調査を実施する。		H29	H30	R元	R2	R3
		対策工事、モニタリング				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源							当初予算額	主な財源	OR元年度
うちなーロードセーフティー事業								一括交付金(ソフト)	OR元年度：ロードキルを防止するため、北部地区においてモニタリング調査を1件実施した。
H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額				OR2年度	
一括交付金(ソフト)	直接実施	21,092	47,429	37,962	11,120	6,288	0	一括交付金(ソフト)	OR2年度：引き続きボックスの設置工事及びモニタリング調査を行う。

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源							当初予算額	主な財源	OR元年度
									OR元年度：
									OR2年度：

活動指標名	対策工事、モニタリング調査				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	実施計画策定	対策工事実施	対策工事、モニタリング調査実施	対策工事、モニタリング調査実施	モニタリング調査実施	対策工事、モニタリング調査実施	20.9%	6,288	大幅遅れ	北部地区において、ヤンバルクイナのロードキル対策として、路上調査や横断ボックスへのカメラ設置などのモニタリング調査を1件実施した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
・沖縄の生態系・生物多様性の維持のため、これまでに実施して来たモニタリング調査やロードキル対策工事の事業効果や課題について、関係機関（環境省等）との情報共有を図り、連携したロードキル対策に取り組む。	・環境省など関係機関が参加する「やんばる地域ロードキル発生防止のための連絡協議会」において、取組状況を報告するなど情報共有を図り、関係機関と連携したロードキル防止に取り組んだ。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・沖縄県は、やんばる地域及び西表島の世界自然遺産登録に向け、生態系・生物多様性の維持に取り組んでおり、希少な生物の保護対策（ロードキル防止）は重要な取組の一つである。

○外部環境の変化

・環境省では「ヤンバルの希少野生動物のロードキル発生防止のための連絡会議」や「ロードキル発生防止のための草刈り・側溝清掃作業」を開催し、ロードキル防止に取り組んでいる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・関係機関（環境省など）が開催する会議やイベントに積極的に参加し、希少野生動物の効果的な対策を実施出来るよう関係機関との密な連絡体制の構築が必要である。

・やんばる地域にはヤンバルクイナやケナガネズミなど多くの希少生物が生息しており、ロードキル防止に取り組むことにより、やんばる地域の生態系・生物多様性を維持する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・沖縄の生態系・生物多様性の維持のため、これまでに実施してきたモニタリング調査やロードキル対策工事の事業効果や課題について、関係機関（環境省等）との情報共有を図り、連携したロードキル対策に取り組む。